



住宅であれば、雨風がしのげて、プライバシーが確保できていれば、住宅として、最低限の機能は満たしている訳です。

しかし、ちょっとデザインに目を向ける事で、豊かな時間を過ごす事ができます。

観葉植物を飾ってみましたり、本棚の本の背表紙の色を色別に並べてみたり、ラグマットの色を変えてみたり・・・ちょっとした事が自分の気分を良くさせてくれます。

日常生活上にデザインを意識的に取り込む事は、自分の好みと向き合い、どう使うのか、どう飾るのかを、楽しみながら、思考錯誤する行為なのです。



そんな言葉が、この半年間、頭に浮かんで消え、浮かんで消え・・・ひたすら仕事に打ち込んできました。

この半年間の仕事の中で、クライアントであるお客様と一緒に作りあげてきた仕事の成果は、双方向に思いをぶつけてきた結果として、非常に納得のいく内容になりましたし、デザインについて、改めて気づかされた事や再確認できた事は、私にとっても大きな財産となりました。



普段から洋食派である事を理解していないと、いくら素敵なデザインであったとしても、自分に合ったものでない為に、器の使い勝手が悪くなってしまう。それは、住宅や、店舗のデザインも同じ事なのです。

私達の様な立場の仕事で、デザインづくりのイメージを言うならば、クライアントのつくった料理を盛り付ける器を、一緒に選んでさし上げる様な感じだと思います。

そして、デザインができるまでのプロセスで大切に思う事は、使う人の日常の中に潜んでいる、デザインに対してのキーワードを、なるべく具体的に取り上げて、明確な判断基準を設けてから、それに対して第三者的な意見や提案を行う事です。

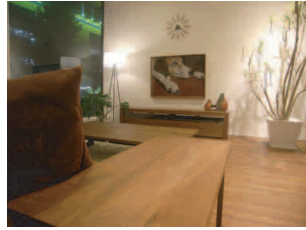
そうする事で、クライアントがより深く、自分の好みのデザインを理解し、判断がしやすくなる事で、デザインは自ずと形になってくれると思います。

暮らし(日常)をデザインする・・・

日常の中に、デザインを求める事は、そんなに難しい事ではありませんので、是非、お勧めします。

お部屋の掃除をした後に、爽快な気分になった経験は誰でもお持ちになった事はあるかと思いますが、そこからもう一歩踏み出して、綺麗な部屋を見回した時、何か足りないと思える心の動きが、デザインを求める第一歩となるわけです。それが、日常生活を豊かで、ゆとりあるものに変えてくれるクリエイティブな思考なのではないでしょうか。

日常生活上にデザインを取り入れる事で得られる効果について、一度、じっくりと考えみて下さい。



# 「日常生活にデザインを。」

ZUIUN便り Vol.5

約半年ぶりにZUIUN便りを書きます。

この半年間、書くのを故意にサボっていた訳ではありませんので、悪しからずご了承下さい。

それでは、この半年間、何をしていたかと申しますと・・・仕事、仕事、また仕事。気づいたら半年経っていたって感じです。(光陰矢の如しってヤツです。)

私達の仕事は、住宅や店舗の空間をデザインする仕事です。そこで今回は、この半年間の仕事の区切りとして、デザインについて再度、考えをまとめる意味で、クローズアップしてみたいと思います。

デザインと一口に言っても、アートだったり、服飾だったり、広告、グラフィック、プロダクト・・・とかなり範囲が広いので、身近な日常生活にあるデザインに絞ります。(その筋の評論家ではないので)そして、先に結論を言うと、暮らしの中にデザインを求める事は、結果として、生活にゆとりを与え、豊かな気持ちにさせてくれる具体的な方法手段である事は、紛れもない事実だと言う事です。

例えば、食器について、かの美食家であった路山人(ろさんじん)は、料理を盛り付ける食器によって、料理が一層美味しく感じる事に気づき、自ら食器の製作に心血を注いだと言う事が陶芸家としての地位を築いたという有名な話がありますが、食器ほど使う目的に対して、デザインの意味が問われるものは無いと思えます。(場合によってはいい事もありますが)それは、個々の価値観だとは思いますが、最近話題の食育(しょくいく)で問題になっている事は、スーパーマーケットで購入してきた惣菜等を、皿に盛り付けずに、サララップをはがして、そのまま食卓の上と並べ、家族でそれをつつく・・・。極論を言えば、別にそれでも目的は達成しているのでもいい訳ですが、



それでは教育上よろしくないと言う事なのでしょうか？

確かに、私も一人暮らしの時期は、そうしていましたが、皿洗いの煩わしさから開放される事が良い事だと感じていました。

しかし、生活の中でデザインを身近に感じる事は、目的を最小限で達成する事に留まらず、少しでも豊かな時間を過ごせる様に働きかける事だと思えます。そして、そういう価値観で生活を送る事ではないでしょうか？

その為には、余裕ある思考を持つ習慣も必要になります・・・(・・・と自分に言い聞かせています。)

例えば、自宅で晩酌する時に、つまみのキムチを小鉢に盛り付けるだけで、美味しいお酒に早変わりする訳です・・・私の場合。

そして、場合によっては、入れる器を考えたり、盛り付け方に工夫を凝らす事は、とても豊かな時間であり、クリエイティブな行為だと思えます。

この様な余裕や、ゆとりが無ければ、器を前にした時に、そのデザインの良さや価値が分からない訳です。何を盛り付けるのか、どう盛り付けるのか、使ってみたらどんな感じになるのかを具体的にイメージする事ができると言う事は、自分の好みがちやんと理解できていて、デザインに対しての判断基準が明確になってないといけない訳です。

さて、私の仕事である住宅や店舗の設計は、使う(住む)人の日常空間をデザインする仕事です。

デザインに対しての考え方は、個々に違う訳ですが、こちらの主張を通しすぎてもいけませんし、クライアント側から、色や形、大きさの好みを聞いて図面に表すだけでも、プロの仕事としては疑問符がつく訳です。

そう言うと、とても難解な問題を解くかの様に、デザインをつくり上げているのかと思われるかもしれませんが、そんな大それた事はしておりません。

又、店舗デザインでは、よりしつかりとしたコンセプトワークが必要になってきます。

デザインを主観的に検討したり、客観的に検討したり、どう使うのか、どう演出するのか・・・。

お店で働く人が、気に入ったデザインの中で仕事をすることは、職場に活気が生まれますし、ご来店客にも、良い空気が伝わり、お客様にも受け入れられるデザインとなるわけです。(デザインは、お店の売り上げにも深く関わっているのです。)

日常の中に、デザインを求める事は、そんなに難しい事ではありませんので、是非、お勧めします。

お部屋の掃除をした後に、爽快な気分になった経験は誰でもお持ちになった事はあるかと思いますが、そこからもう一歩踏み出して、綺麗な部屋を見回した時、何か足りないと思える心の動きが、デザインを求める第一歩となるわけです。それが、日常生活を豊かで、ゆとりあるものに変えてくれるクリエイティブな思考なのではないでしょうか。

日常生活上にデザインを取り入れる事で得られる効果について、一度、じっくりと考えみて下さい。

そんな言葉が、この半年間、頭に浮かんで消え、浮かんで消え・・・ひたすら仕事に打ち込んできました。

